

平成 21 年 7 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320063
 研究課題名（和文） 意味理解から見た言語の構成と伝達の定位と日独語の対照可能性
 研究課題名（英文） The Possibility of Japanese-German Contrastive Linguistics:
 Composition of Language and Communication from the Viewpoint of
 Semantic Understanding
 研究代表者 森 芳樹（MORI YOSHIKI）
 筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・准教授
 研究者番号：30306831

研究成果の概要：

文法理論の拡張にあたって実用論を援用しようとする試みは少なくない。本プロジェクトでは意味論を諸インターフェイスの中心に据えて、コンテキストと文法の相互関係についての研究を進めた。記述上の対象領域としては情報構造とアスペクト、時制、モダリティー（ATM）を選択し、一方では、パーズングを基盤に置いた構文解析を言語運用の分析と見なす Dynamic Syntax (DS) の統語理論的な可能性を検討した。他方では、形式意味論・実用論と認知意味論・実用論の双方の成果を取り入れながらテキスト・ディスコースとコンテキストの分析を進めた。なお本プロジェクト期間中に、当研究グループから 4 本の博士論文が提出された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	2,500,000	750,000	3,250,000
平成19年度	2,400,000	740,000	3,140,000
平成20年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
年度			
総計	7,500,000	2,270,000	9,770,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 言語学・言語学

キーワード： 独語学

1. 研究開始当初の背景

変形生成文法と認知言語学の対立として顕在化した議論は、理論言語学における言語の自律性にまつわる問題であるが、同時に、一方でプログラムの演繹的な線形処理をモデルとした言語理論と、他方でニューラルネットワークを模したプログラムの並列処理をモデルにして、枝節の接続に関する統計処理によって「学習」を可能にした言語理論との対立でもあった。しかしこの両者に共通なのは、なんらかの情報処理に基づいたプログラム内

の要請によって、閉じた認知体系の中で「言語」が生成される、という信念である。それに対して本プロジェクトは、形式的、計算的であることを放棄することなく、しかし開かれた伝達システムが「言語」の理解と生成に決定的に関与していることを言語学の枠組を用いて明らかにしようと試みた。今回の申請期間内の目標としては、情報構造のフォーマリズムへの統合とアスペクト、時制、モダリティー(ATM)の詳細な対照分析を挙げた。

2. 研究の目的

人間による逐次的な文処理という基本的視点にもとづいて文とディスコースの境界を分析しようとする本プロジェクトは、①人間が実際に行っている文処理を計算論的にモデル化することを目指しながら、言語学の認知科学との接続を考える点、②形式的な分析と認知言語学の成果が融合可能だという立場に立ち、その融合を進める点においてユニークなものである。本プロジェクトが選択する **Dynamic Syntax (DS)** は、パーズングを基盤に置いた構文解析を言語運用の分析と見なし、解析木を意味表示として捉え、解析木の漸増的な成長と漸減的な選択を目標指向の計画行為としてエージェントの行為理論に埋め込むという特性を有する。これにさらに、伝達の認知に与える影響をコンテキストという形で定義しコンテキスト理論を接続する試みは、「意味論を中心に据えたインターフェイス」を確立する端緒となると考えられた。

3. 研究の方法

一方では、意味論の統語論とのインターフェイスとして **Dynamic Syntax(DS)**の枠組を発展させながら、日本語、英語、ドイツ語の対照文法を充実させてきた。他方、言語構造と実用論能力、認知能力とのインターフェイスでは、形式意味論・実用論と認知意味論・実用論の双方の成果を取り入れながらテキスト・談話とコンテキストの分析を進めた。

4. 研究成果

初年度に当たるH18年度には、日本語関係では所有、数量詞、卓立などの現象について考察を深め、記述と形式化の両面で進捗を見た。形式化の中心になったのはダイナミック・シンタクス (DS) で、6月には **Ruth Kempson** を東北大 COE、東大 COE 合同のシンポジウムに招待し、実質的には当科研グループが発表、議論を重ねた。また、fMRI/EEG を用いた脳機能計測によって日本語の文処理過程計測実験も行い、脳科学との接点も探った。とくに、DS によって日本語文のインクリメンタルな処理を包括的に定式化するための基本的検討を行い、前者の実験結果を後者の理論によって解釈・モデル化するための方法の端緒も開いた。実装の面でも、Prolog を用いて DS の基本的な処理の実装を行った。これに対してドイツ語に関しては、COE シンポジウムにおいて **Kempson** を交えて DS によるドイツ語の扱いについて議論を深めた。

さらに、名詞意味論、動詞意味論を実用論的なレベルで融合させる試みを続けている。前者は情報構造の研究、後者はアスペクト・テンズ・モダリティ (ATM) の研究に収斂し

てきた。視点研究、コンテキスト研究も視野に入れ、結果として「モダリティと指示」の問題が研究の焦点として浮かび上がってきた。

なお年度中に、荻原俊幸、**Chungmin Lee**, **Sebastian Löbner** を招待し研究協力を発展させた。

H19年度は、一方では意味論の統語論とのインターフェイスとして **Dynamic Syntax(DS)**の枠組を発展させながら、他方、形式的に捉えられる構造と実用論能力、認知能力とのインターフェイスでは、形式意味論・実用論と認知意味論・実用論の双方の成果を取り入れながらテキスト・談話とコンテキストの分析を進めることを狙いとしました。

DS に基づく脳科学との境界における言語処理分析も進展している。DS の実装以外にも、**Multimodal Type Logical Grammar** の枠組を用いた分析を語順と量化詞などの現象に適用しただけでなく、**Continuation** (継続) を文法分析にも使用する試みにも着手した。

日本語、英語、ドイツ語の対照文法を充実させるために、モダリティを中心的に研究し、時制、アスペクトとの相互作用を分析した。また、新たな下位分野としてモダリティと文の独立性や複文の従属性との関連が研究課題として浮上してきた。今年には時間性従属接続と継続的關係文 (**weiterführende Relativsätze**) を取り上げた。

なお、2007年6月には、**Gerhard Jäger** が当プロジェクトの招待で来日した。

H20年度の研究の中はまだすべてが論文形態の発表には至っていないが、情報構造とATMの意味論に関して以下の点について進展があった。一つは文の階層性の検討である。一方で時間節、目的節や連体節などの従属節の構造と意味の多様性をドイツ語と日本語を中心にして主張した。他方で、ドイツ語の **V2 (動詞第2位)** についていかなる意味的解釈が可能かを検討し、これまでの文ムードとトピック・フォーカスの議論について、モダリティの観点から意味論的に統一的な説明を探った。第二に、条件節の振舞いを検討しながら、その時制やモダリティとの相互干渉を議論した。現実性推論の問題と、否定極性読みの多義性の問題を取り扱った。最後に、所有表現 (**HAVE**) の問題を日独英対照の立場から取り上げた。

また **dynamic syntax** についても、多重主語文を事例として解釈の複雑性を説明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- (1) Alastair Butler and Kei Yoshimoto. "Shallow Grammar + Constrained Semantics = Deep Grammar". 言語処理学会第 15 回年次大会発表論文集. p.662-665. 2009. 査読無
- (2) Jiro Inaba. "Some Asymmetries between Initial and Final Subordination Markers". 「表現技術研究」第 5 号 p.33-55. 2009. 広島大学表現技術プロジェクトセンター. 査読無
- (3) Yoshiki Mori. "Causal Implicature of Temporal Subordinate Clauses". *Proceedings of International Congress of Linguists 18*, Vol. 2. p.161. Seoul. 2008. 査読有.
- (4) Kei Yoshimoto, Chidori Nakamura and Alastair Butler. "Hierarchy-based Interpretation of Tense in Japanese Complex Sentences". *Proceedings of International Congress of Linguists 18*, Vol. 2, p.332-333. 2008. 査読有
- (5) Hiroaki Nakamura. "A Compositional Approach to the Topic/Comment Articulation in Japanese", in: *Proceedings of International Congress of Linguists 18*, Vol. 2, p.10-11. 2008. 査読有
- (6) Yusuke Taka and Yoshiki Mori. „Bedeutungserweiterungen und aspektuelle/temporale Eigenschaften von temporalen Subjunktionen“. *Neue Beiträge zur Germanistik*, 7-1. S.29-45. 2008. 査読有
- (7) Shin Tanaka. „Kontra Ellipse: So viel wie möglich, so wenig wie möglich“. *Neue Beiträge zur Germanistik*, 7-1. S.46-59. 2008. 査読有
- (8) Alastair Butler, Chidori Nakamura and Kei Yoshimoto. "Topic/Subject Coreference in the Hierarchy of Japanese Complex Sentences". *Proceedings of the Fifth International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics*, p.1-13. The 22nd Annual Conference of the JSAI. 2008. 査読有
- (9) Hiroaki Nakamura, Kei Yoshimoto, Yoshiki Mori and Masahiro Kobayashi. "Multiple Subject Constructions in Japanese: A Dynamic Syntax Account". *Proceedings of the Fifth International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics*, p.14-30. The 22nd Annual Conference of the JSAI. 2008. 査読有
- (10) 沼田善子. 「とりたて詞の分布と意味をめぐる一「も」と「だけ」の記述を例に」『日本語文法』8 卷 2 号 20 頁～36 頁. 2008. 査読有 (依頼論文)

(11) 中村裕昭. 「自然言語から論理言語への翻訳について」海上保安大学校研究報告 53 卷第 2 号 p. 31-60. 査読無 2008

(12) Masahiro Kobayashi and Kei Yoshimoto. "Transition and Parsing State and Incrementality in Dynamic Syntax", in: Hee-Rahk Chae, et al. (eds.) *The 21st Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC21)*, p.249-258. 2007. 査読有

(13) 吉田光演. 「名詞句の可算性と不可算性の区別一言語比較の観点から」欧米文化研究, 14 号、p.33-48. 2007. 査読有

(14) 吉田光演, 筒井友弥. 「Zwei Kilo Mehl (sind/ist) viel zu viel fuer den Teig. - 「数量句 + 基礎名詞」の数はいかに決まるか」ドイツ文学論集, 40 号、p.13-25, 2007. 査読有

(15) Masahiro Kobayashi. "Incremental Processing and Design of a Parser for Japanese: A Dynamic Approach". *Proceedings of the Fourth International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS2007)*. vol. 4. pp.261-273. 2007. 査読有

(16) 森 芳樹. 「主観性と文法化：テキスト言語学の可能性」日本認知言語学会第 6 回大会論文集. p.523. 2006. 査読有

(17) 森 芳樹. 「時制の主観性とコンテキスト依存性」日本認知言語学会第 6 回大会論文集. p.536-539. 2006. 査読有

[学会発表] (計 37 件)

(1) Jiro Inaba. "A Left-Right-Asymmetry and the Positioning of Complementizers". Gastvortrag im Graduiertenkolleg „Satzarten“, Universität Frankfurt. 2009.3.17. 招待

(2) 森 芳樹. 「さらに V2 (Verb Second) の「意味」について」広島大学総合科学研究科・言語と情報研究プロジェクト第 2 回公開セミナー ワークショップ「節の構造と意味：Left Periphery をめぐって」広島大学、2009.2.28. 招待

(3) 森 芳樹、高 裕輔. 「目的節の日独対照研究」広島大学総合科学研究科・言語と情報研究プロジェクト第 2 回公開セミナー ワークショップ「節の構造と意味：Left Periphery S をめぐって」広島大学、2009.2.28. 招待

(4) Yuko Kobukata & Yoshiki Mori. "HAVE light for HAVE holders and HAVE owners". FFF Workshop "Verbal and Nominal Possession", HHU Düsseldorf. Düsseldorf, Germany, 2009.1.29. 招待

(5) 沼田善子・竹沢幸一・森 芳樹. 「とりたての作用域と否定」日本語学国際フォーラム 2008 「日本語動詞とその周辺」於 中国清华大学. 2008.10.12.

- (6) Yoshiki Mori. “Causal Implicature of Temporal Subordinate Clauses”, Conference of International Linguists 18 (CIL18), Workshop 5 “Formal Approaches to the relationships of Tense, Aspect and Modal” (Stefan Kaufmann & Yukinori Takubo), Seoul, 2008.7.24. 審査有
- (7) Hiroaki Nakamura. “A Compositional Approach to the Topic/Comment Articulation in Japanese”, Conference of International Linguists 18 (CIL18), Seoul, 2008.7.23. 審査有
- (8) 高橋慶、横山悟、神原利宗、吉本啓「Right Node Raising 構文処理にみられる統語依存情報減衰効果」日本語学会第 136 回大会。学習院大学、2008.6.21 審査有
- (9) Kei Takahashi, Satoru Yokoyama, Toshimune Kambara, Kei Yoshimoto, Ryuta Kawashima. “Neural Mechanism of Information Retrieval Unique to Sentence Processing”. The 14th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. Melbourne, Australia. 2008.6.18. 審査有
- (10) 森 芳樹. 「統語・意味インターフェースにおけるモードと談話接続」日本独文学会春季大会シンポジウム「Satzstruktur と Satzmodus—構造と意味のインターフェースをめぐって (Satzstruktur und Satzmodus—Zum Interface zwischen Struktur und Bedeutung)」立教大学、2008.6.14. 審査有
- (11) 稲葉治朗. 「補文の語順パラメータ」日本独文学会春季大会シンポジウム「Satzstruktur と Satzmodus—構造と意味のインターフェースをめぐって (Satzstruktur und Satzmodus—Zum Interface zwischen Struktur und Bedeutung)」立教大学、2008.6.14. 審査有
- (12) Hiroaki Nakamura, Kei Yoshimoto, Yoshiki Mori, Masahiro Kobayashi. “Multiple Subject Constructions in Japanese: A Dynamic Syntax Approach”. *The 5th International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS 2008)*, Asahikawa, 2008.6.9. 審査有
- (13) Jiro Inaba. “Against a Uniform Treatment of Extraposition”. Deutsche Gesellschaft für Sprachwissenschaft (DGfS) Annual Meeting, Bamberg, Germany, 2008.2.29. 審査有
- (14) Yoshiki Mori. “Impact of Causal Implicature on the Subordinate Clause Tense”, Deutsche Gesellschaft für Sprachwissenschaft (DGfS) Annual Meeting, AG5 Tense across Languages (organized by Renate Musan, Monika Rathert & Rolf Thieroff), Bamberg, Germany, 2008.2.28. 審査有
- (15) 森 芳樹. 「時間従属節と因果推論との

- 関係」広島大学総合科学研究科・言語と情報研究プロジェクト第 18 回公開セミナー（文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム企画）大学院生ワークショップ「言語の対照分析」、広島大学、2008.1.12. 招待
- (16) 沼田善子. 「とりたて詞の分布と意味から見える研究の可能性 —「も」と「だけ」の記述を例に—」日本語文法学会第 8 回大会シンポジウム「とりたて研究の可能性」於 筑波大学 2007.10.27. 招待
- (17) Yusuke Taka, Yoshiki Mori. „Bedeutungserweiterungen und aspektuelle/temporale Eigenschaften von temporalen Subjunktionen“. Die Japanische Gesellschaft für Germanistik, das 35. LinguistenSeminar. Kyoto, 2007.8.30. 審査有
- (18) Jiro Inaba. „Zyklischer Spell-out und Linearisierung von Komplementen“. Die Japanische Gesellschaft für Germanistik, das 35. Linguisten-Seminar. Kyoto, 2007.8.30. 審査有
- (19) Yuko Kobukata, Yoshiki Mori. “Definiteness Effect, Sortal-Relational Distinction and Information Structure”, Concept Types and Frames Conference 2007. Düsseldorf, Germany, 2007.8.22. 審査有
- (20) Satoru Yokoyama, Kei Takahashi, Toshimune Kambara, Tadao Miyamoto, Kei Yoshimoto, Ryuta Kawashima. “Working Memory System as a Sentence Processor in the Human Brain”. An International Workshop on Mental Architecture for Processing and Learning of Language. Hiroshima, Japan. 2007.7.14. 審査有
- (21) 稲葉治朗. 「ドイツ語の語順に関する諸問題」広島独文学会第 87 回研究発表会。広島、2007.7.21. 審査無
- (22) Yoshiki Mori. “ATM once more dynamically approached”. *The 4th International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS 2007)*, Miyazaki, 2007.6.19. 招待
- (23) Jiro Inaba. “An Economy-Based Analysis of Optional Movement in German.” The 8th annual Tokyo Conference on Psycholinguistics, Tokyo, 2007.3.16. 審査有
- (24) 沼田善子・田川拓海・金成姫・森芳樹. 「とりたて詞「も」の分布と意味の相関—他言語との対照から—」筑波大学対照言語研究プロジェクトチーム主催 対照言語研究プロジェクトシンポジウム『対話する言語学』—日本語と諸外国語の対照的分析による発見と創出—。筑波大学、2007.2.18. 審査無
- (25) 稲葉治朗. 「随意的な移動と素性照合について」Tsukuba GL (Germanistische Linguistik) Workshop 2007. University of

Tsukuba, 2007.2.17. 審査無

(26) Yoshiki Mori, Ken-ichiro Shirai. “Dynamics in Context Shift” 東北大学 21 世紀 COE プログラム「言語認知総合科学戦略研究教育拠点」&東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば - 進化認知科学的展開」共催 The 5th Symposium on Language, Brain and Cognition (第 5 回「言語・脳・認知」シンポジウム) : Workshop on Dynamic Syntax: What can the study of head-final languages contribute to the theory? 東京大学・駒場、2006.10.6. 審査無

(27) Kei Yoshimoto. “Dynamic Syntax as a Neuro-Cognitive Model of Human Parsing”. 東北大学 21 世紀 COE プログラム「言語認知総合科学戦略研究教育拠点」&東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば - 進化認知科学的展開」共催 The 5th Symposium on Language, Brain and Cognition (第 5 回「言語・脳・認知」シンポジウム) : Workshop on Dynamic Syntax: What can the study of head-final languages contribute to the theory? 東京大学・駒場、2006.10.6. 審査無

(28) Jiro Inaba. “Cases of Scrambling as Feature-driven Movement”, 東京大学 COE 「心とことば」主催「ドイツ語の構文認知」第 2 回研究発表会、東京大学・駒場、2006.10.5. 審査無

(29) Yusuke Taka, Yoshiki Mori. „Eine Zeitreise über temporale Konjunktionen: Tempus und seine Einflüsse auf Konnektorensemantik“ Die Japanische Gesellschaft für Germanistik, das 34. Linguisten-Seminar. Hayama, 2006.9.3. 審査有

(30) Jiro Inaba. „Einige typologische Bemerkungen zur Satzkomplementierung“. Gastvortrag im Graduiertenkolleg „Satzarten“, Universität Frankfurt. 2006.7.25. 招待

(31) 森 芳樹. 「『とりたて』の談話意味論的解釈—対照・理論言語学的観点から—」. Workshop “Rencontres en linguistique japonaise”, Paris, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Centre National de la Recherche Scientifique. 2006.6.21. 招待

(32) 沼田善子. 「「でも」か「で」と「も」か—「意外」の「でも」をめぐる—」Workshop “Rencontres en linguistique japonaise”, Paris, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Centre National de la Recherche Scientifique. 2006.6.21. 招待

(33) 田川拓海, 沼田善子, 森 芳樹. 「『とりたて』要素の分布と意味の相関—対照・理論言語学的観点から—」 日本言語学会第 132 回大会. 東京大学・駒場、2006.6.18. 審査有

(34) 小深田祐子, 西川由美子, 森 芳樹. 「HAVE の英独対照」 東京大学 COE 「心と

ことば」主催・「ドイツ語の構文認知」第 1 回研究発表会. 東京大学・駒場、2006.6.10. 招待

(35) 稲葉治朗. 「文目的語と補文標識の位置についての類型論的—考察」 東京大学 COE 「心とことば」主催・「ドイツ語の構文認知」第 1 回研究発表会. 東京大学・駒場、2006.6.10. 審査無

(36) Jiro Inaba. “Toward a Phase-Based Analysis of Post-Verbal Sentential Complements in German”. *InterPhases*, Nicosia, Cyprus, 2006.5.20. 審査有

(37) Jiro Inaba. “Cyclic Linearization and the Positioning of Complements in German”. 東京大学英語学研究会、東京大学・本郷、2006.5.8. 招待

〔図書〕(計 11 件)

(1) 沼田善子. 『現代日本語とりたて詞の研究』264 頁. ひつじ書房. 2009.

(2) Jiro Inaba. “Toward a Phrase-Based Analysis of Post-Verbal Sentential Complements in German”, in: K. Grohmann (ed.) *InterPhases: Phase-Theoretic Investigations of Linguistic Interfaces*. Oxford Studies in Theoretical Linguistics 21. p.263-282. Oxford, Oxford UP. 2009.

(3) Hiroaki Nakamura, Kei Yoshimoto, Yoshiki Mori, Masahiro Kobayashi. “Multiple Subject Constructions in Japanese: A Dynamic Syntax Approach”, in: Hiromitsu Hattori, et al. (eds.) *New Frontiers in Artificial Intelligence: JSAI 2008 Conference and Workshops*. Ashahikawa, Japan, June 11-13, 2008, Revised Selected Papers (Lecture Notes in Artificial Intelligence), p.103-118., Berlin, Springer. 2009.

(4) Hiroaki Nakamura. “Left-Peripheral and Sentence-Internal Topics in Japanese”, in: Ken Satoh, et al. (eds.), *New Frontiers in Artificial Intelligence: JSAI 2007 Conference and Workshops*, p.109-122. Berlin, Springer. 2009.

(5) Masahiro Kobayashi. “Incremental Processing and Design of a Parser for Japanese: Dynamic Approach” in: Ken Satoh, et al. (eds.), *New Frontiers in Artificial Intelligence: JSAI 2007 Conference and Workshops*, p.174-186. Berlin, Springer. 2009.

(6) Rui Otake, Kei Yoshimoto. “A Multimodal Type Logical Grammar Analysis of Japanese: Word Order and Quantifier Scope”, in: Ken Satoh, et al. (eds.), *New Frontiers in Artificial Intelligence: JSAI 2007 Conference and Workshops*, p.135-148. Berlin, Springer. 2008.

(7) 田中 慎. 「代名詞使用から見たドイツ語テキスト構成のしくみ」三瓶裕文・成田節(編)『ドイツ語を考える. ことばについての小論集』p.202-211. 三修社. 2008.

(8) Shin Tanaka. "The Aspect-Modality-Link in Japanese: The case of the evaluating sentence", in: Werner Abraham and Elisabeth Leiss (eds.) *Modality-Aspect Interfaces. Implications and typological solutions*. P.309-327. Amsterdam. John Benjamins .2008.

(9) Jiro Inaba. "An Economy-Based Analysis of Optional Movement in German", in: Y. Otsu (ed.) *Proceedings of the Eighth Tokyo Conference on Psycholinguistics*. P.137-159. Hituzi Syobo. 2007.

(10) Jiro Inaba. *Die Syntax der Satzkomplementierung: Zur Struktur des Nachfeldes im Deutschen*. Berlin. Akademie Verlag (Studia grammatica 68). 2007.

(11) Kei Yoshimoto, Masahiro Kobayashi, Hiroaki Nakamura, Yoshiki Mori, "Proceeding of Information Structure and Floating Quantifiers in Japanese", in: Takashi Washio et al. (eds.) *New Frontiers in Artificial Intelligence: Joint JSAI 2005 Workshop Post-Proceedings (Lecture Notes in Artificial Intelligence 4012)*, pp.103-110. Berlin, Springer. 2006.

[その他]

A. 会議開催

(1) 吉田光演. 日本独文学会春季大会シンポジウム「Satzstruktur と Satzmodus —構造と意味のインターフェースをめぐって (Satzstruktur und Satzmodus —Zum Interface zwischen Struktur und Bedeutung)」立教大学、2008.6.14. 司会

(2) 森 芳樹. Tsukuba GL (Germanistische Linguistik) Workshop 2007. University of Tsukuba, 2007.2.17. 主催, 司会

(3) 沼田善子、森 芳樹. 筑波大学対照言語研究プロジェクトチーム主催 対照言語研究プロジェクトシンポジウム『対話する言語学』—日本語と諸外国語の対照的分析による発見と創出—. 筑波大学、2007.2.18-19. 主催メンバー、司会

(4) 吉本 啓. 東北大学 21 世紀 COE プログラム「言語認知総合科学戦略研究教育拠点」&東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば - 進化認知科学的展開」共催 The 5th Symposium on Language, Brain and Cognition (第 5 回「言語・脳・認知」シンポジウム): Workshop on Dynamic Syntax: What can the study of head-final languages contribute to the theory?東京大学・駒場、2006.10.6. 司会

(5) 森 芳樹. 東京大学 COE 「心とことば」主催・「ドイツ語の構文認知」第 1 回研究発表会. 東京大学・駒場、2006.6.13. 司会

B. 提出博士論文

(1) Jiro Inaba. *Die Syntax der Satzkomplementierung: Zur Struktur des Nachfeldes im Deutschen*. Universität Frankfurt. 2006.7.

(2) 沼田善子. 『現代日本語とりたて詞の研究』. 筑波大学人文社会科学部研究科. 2006.10.

(3) RyoSuke Takahashi. "A Decomposition Approach to Dative Verbs in German" 東京大学大学院・総合文化研究科. 2009.3.

(4) Shin Tanaka. „Deixis und Anaphorik: Referenzstrategien im Text, Satz und Wort“. Universität München. 2009.3.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 芳樹 (MORI YOSHIKI)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・准教授

研究者番号: 3 0 3 0 6 8 3 1

(2) 研究分担者

吉本 啓 (YOSHIMOTO KEI)

東北大学・高等教育開発推進センター・教授

研究者番号: 5 0 2 8 2 0 1 7

(3) 連携研究者

稲葉 治朗 (INABA JIRO)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号: 1 0 3 2 3 6 4 1

小林 昌博 (KOBAYASHI MASAHIRO)

鳥取大学・大学教育総合センター・講師

研究者番号: 5 0 3 6 1 1 5 0

高橋 亮介 (TAKAHASHI RYOSUKE)

上智大学・外国語学部ドイツ語学科・常勤嘱託講師

研究者番号: 3 0 4 3 7 3 9 1

田中 慎 (TANAKA SHIN)

千葉大学・外国語センター・准教授

研究者番号: 5 0 2 3 6 5 9 3

沼田 善子 (NUMATA YOSHIKO)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・教授

研究者番号: 7 0 1 8 9 3 5 6

吉田 光演 (YOSHIDA MITSUNOBU)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号: 9 0 1 8 2 7 9 0

(4) 研究協力者

中村 裕昭 (NAKAMURA HIROAKI)

海上保安大学校・基礎教育講座・教授